

(1)文化財の保存の課題				
第1期計画での課題		第1期計画策定以降の主な動向	継続している課題	加筆が必要な課題
①調査・研究	これまで様々な文化財の調査・研究が進められてきましたが、今後においても、指定文化財の対象、範囲、分類等の検討及び、継続的な調査、研究が必要です	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的建造物悉皆調査 ○天神社総合調査 ○下野谷遺跡の整備や今後の保存、研究のため（価値を高めるため）の調査 	懇談会で議論	
②保護制度	指定されていない文化財には、周知されておらず、未分類のまま、その価値が明確になる前に消失の危機にさらされているものもあります。指定文化財に関わる制度の充実とともに、より幅広い文化財の保護を目指した登録文化財制度等の導入を検討する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> ○下野谷遺跡の国史跡指定・追加指定 ○高橋家住宅、下田家住宅の国登録文化財登録 ○天神社拝殿の市指定文化財指定 ○登録文化財制度の設置に向けた協議の実施 		
③下野谷遺跡	国史跡として指定を受けた下野谷遺跡の保護や、周辺地域や施設も含めた整備等はこれからの課題となっています。市民の貴重な地域資源として、計画的な保存・活用の取組を推進していく必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> ○史跡下野谷遺跡保存活用計画の策定 ○史跡下野谷遺跡整備基本計画の策定 ○史跡下野谷遺跡第1期整備事業の実施 		
④住民の意識	文化財は地域に対する理解を深め、また、郷土意識、まちへの誇り、愛着等を醸成する大切な要素です。“郷土意識”や“地域への愛着”、“ふるさと意識”は、まちづくりへの関心に大きく影響することから、文化財を通して地域に対する意識を醸成していく事も重要です。	<ul style="list-style-type: none"> ○地元商店会主催イベントでのPR ○地元スポーツクラブとの連携（「したのや縄文体操！」） ○キャラクター商品の開発、販売 		
(2)文化財の活用の課題				
第1期計画での課題		第1期計画策定以降の主な動向	継続している課題	加筆が必要な課題
①学校教育	郷土の歴史。文化を理解することは、郷土意識の醸成、まちづくりに対する意識、社会や自己の理解に影響を与えます。本市の将来を担う子供たちが、地域を通して学び、育つ環境として、学校教育における地域の文化財についての学習機会の充実が重要です。	<ul style="list-style-type: none"> ○出前授業の実施（まちなか先生など） ○ふるさと探求学習 ○社会科見学（郷土資料室への社会科見学） 		
②市民活動団体との連携	本市においては、文化財をテーマに活動を行う市民活動団体が存在しており、イベントの共催等行政と連携した、取り組みが進んでいます。市民活動団体の力を生かすこと、また文化財についての市民の学習意欲に答えるため、文化財に関する情報の提供や活用方策の情報共有、発表の機会づくり等の支援を充実させていく事が重要となっています。	<ul style="list-style-type: none"> ○市民協働事業の実施（秋まつり・保谷のアイ・郷土資料室での写真展など） <p>R4年度分別紙</p>		
(3)文化財の保存・活用のための施設の課題				
第1期計画での課題		第1期計画策定以降の主な動向	継続している課題	加筆が必要な課題
①既存施設の充実	文化財の保存・活用にあたっては、郷土資料室を中心に、文化財の学習環境の整備や情報発信、展示の充実を測り、誰しものが楽しめる文化財の総合的な拠点づくりを進める必要があります	<ul style="list-style-type: none"> ○史跡下野谷遺跡ガイダンス施設 ○地域博物館 		
②地域博物館の設置検討	文化財の保存、普及、調査の場としてのみでなく、市民が集い、学習環境であるとともに、文化財サポーター・ボランティア育成の場である文化財保護のプラットフォームとなる施設設置の検討が求められています。			